



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
発行責任者 中川喜久子
2021新年号

全教北九州

検索

人事異動・少人数学級特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

コロナ禍のなか、健康・安全・安心の職場は何より大事

合意と納得に基づく人事異動を

全教北九州 「人事異動に関する要求書」提出

全教北九州市教職員組合は、教職員が生き甲斐をもち、健康で安全・安心して働ける環境の整備、労働条件の改善に資する人事異動となるよう要求書を提出し、交渉を行いました。

コロナ・ICT教育関連の業務増加で超勤削減は無理

5月下旬の学校再開と同時に学校関係者の感染が相次ぎました。

学校再開以降、早朝からの健康観察、密な教室での感染予防対策、給食の配膳、掃除や消毒に追われながら、遅れた教育課程を取り戻すべく授業準備に追われる毎日です。最近ではタブレットの導入等ICT教育関連の業務も増え超勤削減が困難になっています。

管理職からの「へまもない」「早く帰りましょう」の呼びかけが、ストレスに拍車をかけています。

健康で安全・安心して働ける環境の充実が何より大事

全教北九州は、教育委員会に教職員の居住地に近い勤務校への異動を求め、

人事異動基本要

1. 教職員の合意と納得の得られる人事異動とすること。
2. 通勤時間短縮による超勤削減、労働条件改善の一環として人事異動方針を位置づけ、人事異動に反映させること。
3. 教育現場で多忙を極める教員が、本務である教育に意欲や情熱を傾けることができる教育環境・勤務条件充実の一環としての人事異動とすること。

育児、介護、傷病など本人や家族に関わる諸事情への配慮、個々の状況を確実に把握し、本人の意向を異動に反映するよう要求しています。また、校種間の異動では、本人の希望や同意のない異動に強く反対しています。再任用教職員の異動では、本人の意向の重視することを要求しています。

過重労働が原因で心の病気となる教職員もまだ多く、健康で安心して働くことができる職場に異動できるように組合も全力を尽くしています。

2021年4月から小学校全学年に35人以下学級を順次導入

文科省 義務標準法を改正し、5年計画で実施 中学・高校は40人学級を維持

市独自の予算配置を求める

実行委員会が市議会で口頭陳述

12月8日、全教北九州も参加する「20人学級の実現を求め北九州市実行委員会」は市議会教育文化専門委員会に3821筆の署名を提出し口頭陳述を行いました。審査の結果、請願は継続審査となりました。

少人数学級請願

今年は新型コロナウイルスウィルス感染症の感染拡大で、少人数学級への要望が全国の自治体の長や教育長、校長会、PTA会長等からも文科省に提出されました。文科大臣も少人数学級の実現に向けて決意を述べられ期待しているところですが、財務省財政制度等審議会「令和3年度予算の編成等に関する建議」は、少人数学級に込めた子どもたちの教育への切実な要求を切り捨てています。

学校再開時、北九州市でも20人学級がしばらく行われませんでした。この期間、子どもの発表回数が増えた、一人ひとりの子どもに寄り添う時間が増えた、少人数で落ち着いた学習ができたと感じた。経験に感動を覚えたい。感染防止の上から安心して時間を過ごすことができ、その後、元の規模に戻り、間隔を取れない、教員が足りない、小集団をつくることはできない、そんな状況で過ごしています。

今年度から小学校でスタートした、新学習指導要領の目玉は「主体的対話的深い学び」です。これは一斉授業よりも本来さらに指導と評価にかかる時間を要するものです。また、中教審の中間素案では、「誰一人取り残さない、個別最適の学び」を補償していくとあります。ならば一層、学級のサイズダウンを図り教師にも児童生徒にも時間と空間の保障が求められます。

少子化で児童生徒数は自然減少している。しかし、そのうち学級規模が小さくなることを待つてはいられません。国の基準の改定をまたず、独自の予算配置を求めるものです。

全日本教職員組合(全教)

中央執行委員長 小畑雅子



新型コロナウイルスの感染拡大が収まらないもとの、2021年の幕開けとなりました。

国連子どもの権利委員会最終所見(2019勧告)は、「社会の競争的な性格により子ども時代と発達が悪されることなく子どもがその子ども時代を享受することを確保するための措置をとることを日本政府に要請しました。コロナ禍だからこそこの勧告を真摯に受け止め、すべての子どもたちの成長・発達を保障するための学校づくりをすすめていくこと、国に対して、そのための教育条件整備を求めていくことが重要になっていきます。

全教は、2020年、全国の教職員、父母・保護者、教育関係者、地域の皆さんとともに、20人学級を展望した少人数学級の実現を求める「#めざせ20人学級」のとりくみをすすめてきました。少人数学級の実現は、コロナ禍のもとで、あまりにも密になっている教室環境を改善するとともに、一人ひとりの子どもたちに寄り添った教育をすすめる上で欠かせないもの

執行委員長 新屋智子

です。このことは、分散登校の経験等を通じて国民的な合意となりました。国民の声に押され、2021年4月から義務標準法の改正により、5年計画で小学校の全学年で35人以下学級が実現する方向が示されました。これは、はじめの一步であって、すべての学校種での少人数学級の実現に向けて、さらに歩みをすすめていくことが強く求められています。

今、学校では長時間過密労働のもとで、教職員が心身をすり減らしています。管理と統制の教育政策のもとで、自由を奪われ、子どもも教職員も苦しんでいます。何よりも教職員定数を抜本的に増やすとともに、競争主義的な教育政策を改め、子どもにも教職員にもゆとりと自由を取り戻すことが重要になっています。

憲法と子どもの権利条約にもとづき、一人ひとりを大切にした教育を実現するために、「せんせいふやそつ」「めざせ20人学級」の声を父母・保護者、教職員、国民の皆さんと手をつないで広げていく一年としていきましょう。

みなさんと手をつないで広げていく1年に—新年のごあいさつ—

全教北九州市職員組合(全教北九州)

執行委員長 新屋智子

一年前の今頃、いつものように年が明け忙しい3学期を過ごし卒業生を送り出し、四月になったら新入生を迎えて・・・誰もが思っていた学校現場。

日常は、当たり前のようにあるわけではないことを教えてくれた新型コロナ。医療現場の逼迫、経済のダメージ、政治不信等が追い打ちをかけます。

最近の学校現場で危惧されるのは、4月から在校時間等の上限45時間が始まり、「時短ハラスメント」が益々横行するようになったことです。「これは自己研鑽にして削除時間に充てるよう」「勤務時間をコントロールするよう」等と、暗に数字の改竄を求められることがあちこちで聞かれます。

また、業務改善プログラムで研究授業の教案の簡素化が上がっているにもかかわらず、研究授業の前日に書き直しを求められたり、20ページ近い教案を書かせられたりする学校もあります。

このような社会状況や学校現場の中で、人間関係もギスギスしたものになり、メンタルを病んだ人からの

組合への相談が相次いでいます。このような相談を受けていつも思うことは、「壊れずに働くこと」が最優先され、「チーム学校」と言いながら悩みや弱みを見せられない、病んだ人は不適合とでもいわんばかりの扱いを受ける学校現場のおそまつさです。

言わんがな、人間を育てる職場で人間を粗末に扱うことがあってよいはずがありません。休む人が出れば人が足りず困るかもしれません。だからこそ日頃からトラブルに対しては学校一丸となってとりくむことやハラスメントのない職場づくりがもとめられるのではないでしょうか。

組合では、給与や制度の改善を求める運動をすすめるとともに、教育そのものについても学び、警鐘を鳴らす運動もしています。新学習指導要領、GIGAスクール構想と、これからの学校は大きくかわるであろうことが中教審の出した答申素案からも伺えます。

少人数学級を求める声が政治を動かしたように、声をあげることが大事なのです。一人でも多くの方が、運動の輪の中に入ってくださいよう呼びかけます。

1月の行事

■新春女性部交流会

1月9日(土)
13時30分～15時
ウエル戸畑121・122

■全国障害児学校
学級学習交流集会

(オンライン)
1月9日(日) 全体会
13時～15時45分
1月10日(月) 分科会
9時30分～12時30分

※全体会と分科会「発達の遅れと授業づくり」教育課程づくり」は事務所で視聴可能

■1月定例会

1月29日(金)19時～20時
穴生市民センター
小倉南生涯学習センター
※どちらかに参加を

■「せんせいの学校」

(オンライン)
1月30日(土) 14時～16時
講演・楠凡之さん
北九州市立大学文学部教授
※事務所視聴可



組合加入
はこちら
から